

菰野町農業再生協議会（三重県三重郡菰野町）

組織の概要

- 菰野町、JAみえきた、農業委員会、生産組合、商工会等が構成員となり、H23年度に設立。
- 菰野町内の全耕地面積は1,680ha、協議会構成農家数は約850戸。
- 構成員や各地区の水利組合・土地改良区等との調整により水稻の転作率を決定し、麦・大豆、飼料作物等の作付けによる水田利活用を推進している。

生産概要

- 【作付面積】水稻：808ha、小麦：582ha、大豆：526ha（R5年）
- 2年3作の輪作（稲→麦→大豆）、ブロックローテーション実施。
- 高齢化により担い手への農地集約が進んでおり、1経営体による耕作規模は年々増加（平均面積：5ha/経営体（大豆）、2020年農林業センサス）。
- 小麦はあやひかり、大豆はフクユタカを中心に一部サチユタカA1号を作付け。



取組のポイント

<生産技術向上と団地化推進に向けた研修会を定期開催>

- 当地域では、大豆単収が播種時期の降雨、発芽期の高温干ばつや獣害の影響を受け、県平均を下回っていることから、麦播種前の深耕を取り入れた排水性改善や資材投入による土壌改良等を通じて単収向上に努めている。
- 生産技術や病害虫・獣害対策の共有や、作業効率化に配慮した団地化推進を図ることを目的に、担い手農業者営農研修会を定期開催（R5年2回開催）。



<スマート農業技術を積極的に導入し、生産を効率化>

- 収穫作業能力の向上と収量データ収集を目的に、収量センサー付きコンバインを新規導入。適期収穫による収量・品質の安定化に加え、ほ場ごとの収量を測定し、次年度の施肥設計に生かすことで単収向上を図っている。
- このほか、ドローンによる農薬散布やGPS付き自動操舵トラクター等の導入を推進し、水稻や麦も含め、作業の省力化に取り組んでいる。



取組成果

<大豆の生産性向上を実現>

- 収量センサー付きコンバインにより取得したほ場ごと収量データを活用した次年度施肥計画の策定
- 大豆収量の増加
88ha 18^ト (R4) ⇒ 88ha 32^ト (R5) ★78%増
【R7目標：88ha 40^ト】

